



### 今でも残る風景や地名

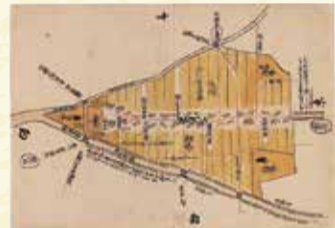
#### 用水の風景

村々は、玉川上水から分水路を引き、飲み水・用水を得ていました。分水路は今も、市内各所で見ることができます。



小川用水 新堀用水

#### 小川村を通る「御鷹の道」



小川村絵図(小川家文書)宝永2(1705)～正徳3年(1713)頃



たかの街道の様子 令和4年撮影

尾張家の鷹場は、現小平市域を含む多摩郡などに設けられていました。

「御鷹の道」(現たかの街道)は、鷹狩の際の鷹を訓練する鷹匠らが通行した道で、現在の小平第三中学校の北側を通り、市役所の南側を経て、玉川上水にかかる寺橋に至ります。

#### 【参考・引用文献】

- ▷「小平市史別冊図録 近世の開発と村のくらし」、小平市、平成25年発行
▷「小平市史別冊写真集 こだいらの「郷土写真」」、小平市、平成25年発行
▷「小平市史」、小平市、平成25年発行

## ネットde古文書講座

小平市立図書館ホームページのネットde古文書講座(右図QRコードからアクセス)では、身近なくずし字や小川家文書などの古文書の読み方を紹介しています。



問題 下の標語を読んでみよう。

Answer section for a reading comprehension problem. It includes a historical document image titled '村鑑帳' (Murakami-chō) and the question text. The answer identifies the document as a village record from the Edo period.

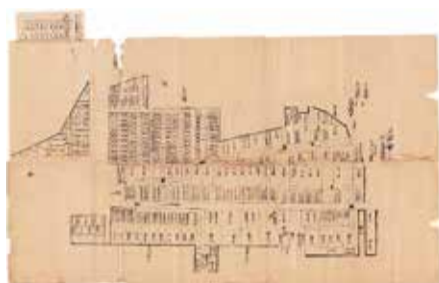
「村鑑帳」とは江戸時代、村ごとの概況を記した村勢要覧。詳しくは、古文書講座基礎編「表題を読んでみよう」をご覧ください。



鈴木新田名主の家 昭和32年

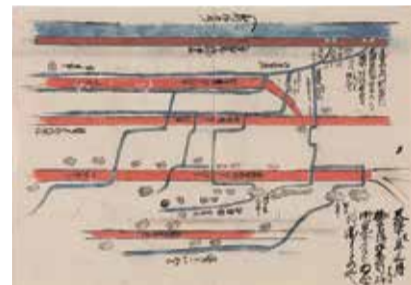


貫井橋の様子 令和4年撮影

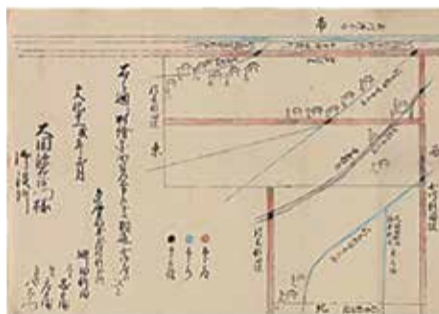


大沼田新田の地割図 享保21年3月「村絵図」(當麻家文書)

18世紀中頃より、武蔵野の水車は、河川・用水路に多くの水車をかけられ、生産した穀物の製粉に用いられた。穀物の製粉に用いられた。穀物の製粉に用いられた。...



大沼田新田の水車 天保10年3月「村絵図」(當麻家文書)



文化11年(1814)「村絵図」(高藤家文書)玉川上水と五日市街道・小川新田境(廻り田)などの道と、多くの水路が描かれている。

廻り田村(現東村山市)を本村とする新田で、他の村に比べて開発に関わる時期は若干遅く、家数も江戸時代後期には十五軒前後と、7か村では最も面積が狭い村でした。

## 七つの村・小平のはじまり

現在の小平市域は、江戸時代前期と中期(享保期)の開発によって成立した村々からなっています。近世以降に開発された村を、一般に「新田村」と呼びますが、この新田村7か村のみで市域が構成されているという点は、近隣の自治体でもあまり例がなく、小平の特徴といえます。

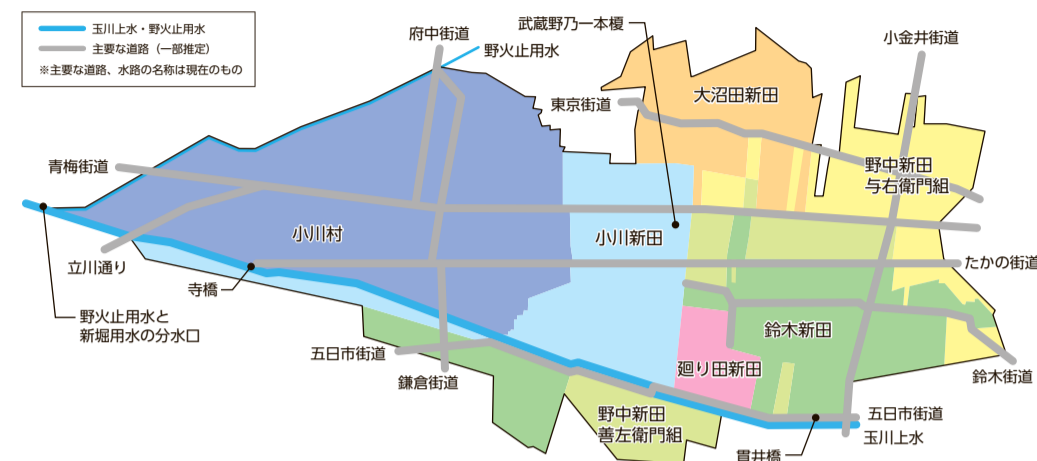


Table with 2 columns: Village Name and Area Description. Lists seven villages and their corresponding geographical locations within the city.

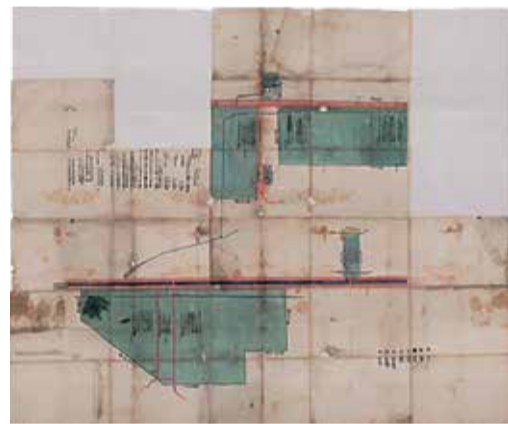
野中新田は、享保期に成立した武蔵野新田のうち、開発当初は最も面積の広い村でした。享保17年(1732)10月には、与右衛門・善左衛門・六左衛門・利左衛門の4名に...

### 野中新田善左衛門組・野中新田与右衛門組



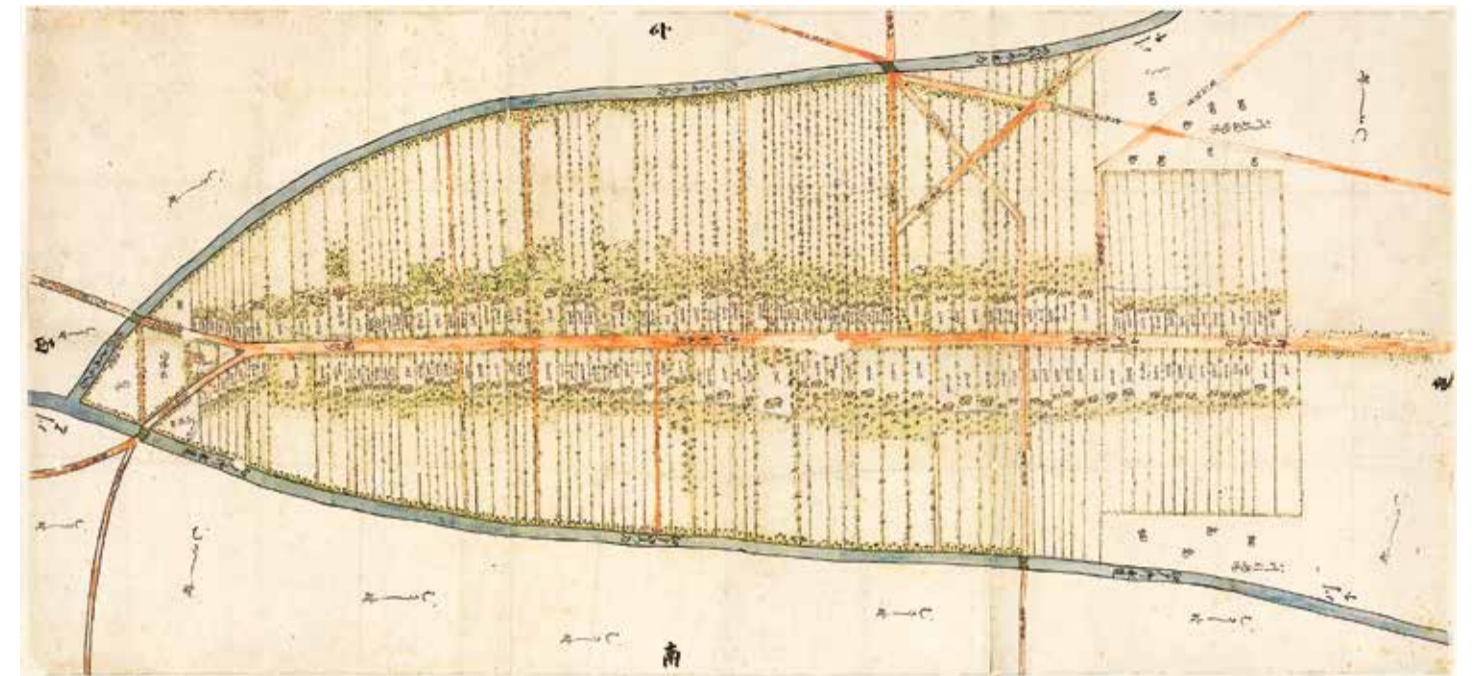
武蔵野乃一本榎跡

宝永元年(1704)、武蔵野にそびえ立ち、青梅街道を往来する人々の目印となっていた一本榎。当時の榎は枯木となり、現在のものは孫木にあたります。



描かれた野中新田善左衛門組 明治2年9月「村絵図」(野中家文書)青梅街道や五日市街道など、各街道に沿って家が描かれており、当時の家数と一致する。

# 地図でたどる小平



描かれた小川村 現在の小川町1丁目 延宝2年頃「小川村地割図」(小川家文書)

小川村で最も古い地図です。南側に「江戸御水道(玉川上水)」が流れ、西端から分水された「のびとめ水道(野火止用水)」が北東へ向かっています。中央を左右に走るオレンジ色の太い線が今の青梅街道です。小川村の景観を特徴付けるのが、青梅街道沿いの短冊型地割です。...

## 市で最も古い小川村

小川村は、明暦2年(1656)に、小川九郎兵衛の主導によりひらかれます。九郎兵衛は石炭伝馬継など往来の人馬を助けるために自費をもって新田開発を願ひ出します。...



野火止用水(左)と新堀用水(右)の分水口 1957年飯山達雄氏撮影・喜平図書館所蔵

### 小川新田

小川新田の開発は、享保7年(1722)に、小川弥市と小川村が願ひ出したことにはじまります。東は小川村境から一本榎まで、南北は玉川上水際から山口領江戸道まで開発したい」といった内容の願書を差し出します。...

## 小平市年表

Timeline table listing major events in the history of the city from 4 BC to the present. Includes dates in both the Japanese calendar and the Gregorian calendar, along with brief descriptions of events like city founding, infrastructure, and cultural milestones.